

日本臨床環境医学会10周年を迎えて

国際臨床環境医学会の思い出

副理事長

安孫子 保*



平成5年9月4～5日の2日間、北海道旭川市大雪クリスタルホールで国際臨床環境医学会が行われました。日本臨床環境医学会が発足したのが平成4年ですから、本学会は発足と同時に国際化を視野に入れていました。私ども（旭川医科大学薬理学教室）は、この名誉ある国際学会の準備を任せられました。世界各国からたくさんの研究者・学者が来られるというので、教室員はこの学会の成功のために全員奮励努力することになりました。クリスタルホールは出来上がったばかりでしたので、はからずも国際臨床環境医学会がこのホールのこけら落としになりました。こけら落としという響きは良いのですが、何しろ初めて使う施設ですので準備するのに大変だったことが後になってから分りました。

ご承知のように、学会を準備するにあたって一番重要なのはマイクとスライドです。マイクについては問題はありませんでしたが、スライド映写には問題がありました。映写機は飛行機の中で映画を映写する時の映写機で、実際にスライドを写してみると、ぼけてよく見えないのです。学会用のスライドはぼけは絶対に許されません。学会の開催日は目前にせまっています。私共は冷汗をかき、慌てました。よくみれば、スクリーンも小さいのです。これも飛行機の中のスクリーンをイメージしているようで、これでは学会に使用出来ません。そこで、大急ぎで大きなスクリーンを作らせ、札幌の業者からキセノンプロジェクターを借りてきたことを思い出します。

この学会での教育講演を一般市民に開放するよう企画したのは石川理事長の素晴らしいアイデアでした。ところが、外国人学者の講演は英語ですので、一般市民には内容が理解出来ません。そこで、同時通訳をする必要が出てきました。医学関係の同時通訳ですので、旭川では適当な人が見つからず、苦勞の末、神戸に適当な方を見つけました。同時通訳は二人いなければ出来ないことも初めて知りました。確かに一人では疲れ果てます。彼女達はクリスタルホールご自慢の六つの同時通訳用ブースが一つも使えないと言いました。理由はどのブースからもスライドが見えにくいというのです。ブースは二階の横側にあるので、これではスライドを斜めから見ることになり、スライドがよく見えないのです。通訳は単に言葉を訳すのが目的ではなく、聴衆にスライドの内容を説明できなければならないので、同時通訳者にもスライドが見える必要があるというのです。結局、聴衆の席の後部に臨時の席を作って同時通訳者のブースとしたことを懐かしく思い出します。

無事、国際臨床環境医学会が終了した時には、全員ほっとしました。懇親会で若いオペラ歌手の歌うリードを聞いてやっと安心したことが昨日のこのように思い出されます。このような国際会議が旭川市で出来たことは、私共にとっては大きな喜びでした。またいつの日にか、このような国際会議が旭川市で開催されることを楽しみにしています。

* 北都保健福祉専門学校副校長